

令和7年7月13日（日）施行

第219回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解答

第1問

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1	未 収 金	750,000	有 価 証 券 有 価 証 券 売 却 益	500,000 250,000
2	現 金	3,000	現 金 過 不 足	3,000
3	商 品 仮 払 消 費 税	250,000 25,000	買 掛 金	275,000
4	旅 費 現 金	123,000 27,000	仮 払 金	150,000
5	貸 倒 損 失	197,000	売 掛 金	197,000
6	租 税 公 課	240,000	当 座 預 金	240,000
7	繰 越 利 益 剰 余 金	2,025,000	損 益	2,025,000

第2問

(ア)	期 首 資 産	¥ 4,350,000
(イ)	総 費 用	¥ 24,830,000
(ウ)	純 仕 入 高	¥ 8,000,000
(エ)	純 売 上 高	¥ 12,000,000

第3問

1	2	3
エ	ウ	イ

第4問

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

K 商 品

令和 7 年		摘 要	受 入			払 出			残 高		
			数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
6	1	前月繰越	200	400	80,000				200	400	80,000
	6	仕 入	600	500	300,000				200	400	80,000
									600	500	300,000
	12	売 上				200	400	80,000			
						100	500	50,000	500	500	250,000
	18	仕 入	400	600	240,000				500	500	250,000
									400	600	240,000
	24	売 上				500	500	250,000			
						300	600	180,000	100	600	60,000
	30	次月繰越				100	600	60,000			
			1,200		620,000	1,200		620,000			
7	1	前月繰越	100	600	60,000				100	600	60,000

売上原価	¥ 560,000
------	-----------

第5問

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	240,000						240,000	
現金過不足	15,000			15,000				
当座預金	290,000						290,000	
普通預金	340,000						340,000	
売掛金	1,300,000						1,300,000	
貸倒引当金		32,000		20,000				52,000
繰越商品	116,000		120,000	116,000			120,000	
備品	770,000			154,000			616,000	
土地	2,400,000						2,400,000	
買掛金		180,000						180,000
借入金		3,600,000						3,600,000
資本金		1,200,000						1,200,000
繰越利益剰余金		62,000						62,000
売上		4,800,000				4,800,000		
受取利息		2,000				2,000		
仕入	680,000		116,000	120,000	676,000			
給料	3,031,000		40,000		3,071,000			
広告費	58,000		15,000		73,000			
交通費	48,000				48,000			
通信費	39,000				39,000			
消耗品費	24,000				24,000			
支払家賃	480,000			13,000	467,000			
水道光熱費	44,000				44,000			
支払利息	1,000				1,000			
	9,876,000	9,876,000						
貸倒引当金繰入			20,000		20,000			
減価償却費			154,000		154,000			
未払給料				40,000				40,000
前払家賃			13,000				13,000	
当期純利益					185,000			185,000
			478,000	478,000	4,802,000	4,802,000	5,319,000	5,319,000

令和 7 年 7 月 13 日（日）施行

第 219 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

第 1 問

1. 有価証券の売却

長崎株式会社の株式 500 株（帳簿価額@1,000）を@¥1,500 で全株売却した。帳簿価額は、当該株式を取得した際の会計上の価額である。今回、売却価額と帳簿価額との差額が利益となるため、「有価証券売却益」として収益計上する。代金は後日振り込まれるため「未収金」で処理する。

【売却価額】@¥1,500 × 500 株 = ¥750,000

【帳簿価額】@¥1,000 × 500 株 = ¥500,000

【差額（利益）】¥750,000 - ¥500,000 = ¥250,000

2. 現金過不足の処理

実際の現金有高は¥77,130 であるのに対し、帳簿残高は¥74,130 であった。差額¥3,000 について、原因が判明していないため、一時的に「現金過不足」勘定で処理する。原因が後日判明した場合は、適切な勘定科目へ振替処理を行う。

3. 商品の仕入

熊本株式会社から商品¥275,000（うち消費税¥25,000）を購入し、代金は掛けとした。当社は「売上原価対立法」により記帳しており、仕入時は「商品」勘定に記入し、販売時に「売上原価」勘定に振り替える。また、消費税を税抜方式により処理するため、本体価額¥250,000 を「商品」、消費税¥25,000 を「仮払消費税」として処理する。

4. 概算払いの精算処理

出張から戻った従業員が、仮払金¥150,000 の精算を行ったところ、実際の旅費は¥123,000 であった。仮払金は概算支給時に一時的に使われる資産勘定であり、確定後、費用（旅費）と差額現金で処理する。

5. 売掛金の貸倒処理

鹿児島株式会社に対する売掛金¥197,000 が回収不能となったため、貸倒損失として処理する。これは当期による売掛金の貸倒れのため、「貸倒損失」勘定で処理し、売掛金を減少させる。

6. 固定資産税の納付

店舗にかかる固定資産税¥240,000 を当座預金から納付した。「租税公課」勘定は、固定資産税などの公租公課を処理する費用勘定である。支払手段は「当座預金」となる。

7. 当期純損失の処理

当期純損失¥2,025,000 が算定されたため、「損益」勘定を通じて「繰越利益剰余金」勘定に振り替える。これは、純損失を資本（純資産）の減少として処理するための仕訳である。

第2問

各金額の算定は、計算することのできる空欄から求める。(単位：円)

(ア) 期首資産

$$\begin{aligned} \text{期首資産} &= \text{期首負債} + \text{期首純資産（資本）} \\ &\quad [\text{期末純資産} - \text{当期純利益}] \\ (\text{ア}) &= 1,280,000 + 3,070,000 \\ &= 4,350,000 \end{aligned}$$

(イ) 総費用

当期純利益	=	総収益	-	総費用
770,000	=	25,600,000	-	(イ)
(イ)	=	24,830,000		

(ウ) 純仕入高

$$\begin{aligned} \text{売上原価} &= \text{期首商品棚卸高} + \text{純仕入高} - \text{期末商品棚卸高} \\ 8,100,000 &= 1,160,000 + (\text{ウ}) - 1,060,000 \\ (\text{ウ}) &= 8,000,000 \end{aligned}$$

(工) 純売上高

$$\begin{aligned} \text{売上総利益} &= \text{純売上高} - \text{売上原価} \\ 3,900,000 &= (\text{工}) - 8,100,000 \\ (\text{工}) &= 12,000,000 \end{aligned}$$

第3問

1. 現金過不足の処理 **エ**の取引の内容が最も適切である。

アの取引内容は以下の通りに仕訳を行うため不適切である。

借	方	科	目	金	額	貸	方	科	目	金	額
買		掛	金	300,000		仕			入	300,000	
立		替	金	50,000		當	座	預	金	50,000	

イの取引内容は以下の通りに仕訳を行うため不適切である。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仕 入	300, 000	買 掛 金	300, 000
立 替 金	50, 000	現 金	50, 000

ウの取引内容は以下の通りに仕訳を行うため不適切である。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仕 入	350,000	買 掛 金	300,000
		現 金	50,000

2. 所得税預り金の処理 ウの取引の内容が最も適切である。

アの取引内容は以下の通りに仕訳を行うため不適切である。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
現 金	10,000,000	借 入 金	10,000,000

イの取引内容は以下の通りに仕訳を行うため不適切である。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
貸 付 金	10,000,000	現 金	10,000,000

エの取引内容は以下の通りに仕訳を行うため不適切である。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
現 金	9,500,000	借 入 金	10,000,000
支 払 利 息	500,000		

3. 給料の支払いの処理 イの取引の内容が最も適切である。

アの取引内容は以下の通りに仕訳を行うため不適切である。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
給 料	550,000	現 金	550,000

ウの取引内容は以下の通りに仕訳を行うため不適切である。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
給 料	550,000	現 金	600,000
立 替 金	50,000		

エの取引内容は以下の通りに仕訳を行うため不適切である。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
給 料	550,000	立 替 金	50,000
		現 金	500,000

第4問

6月6日 香川株式会社よりK商品を@¥500で600個仕入れ、代金は掛けとした。

単価が異なるため、前月繰越分と合算せず、残高欄に併記する。

受入欄

数量：600個 単価：@¥500 金額：¥300,000 (6月6日仕入分)

残高欄

{ 数量：200個 単価：@¥400 金額：¥80,000 (前月繰越分)
数量：600個 単価：@¥500 金額：¥300,000 (6月6日仕入分)

6月12日 愛媛株式会社へK商品を@¥700で300個売り渡し、代金は掛けとした。

商品の払出単価の決定は先入先出法により行うため、まずは前月繰越分の@¥400から全て(200個)を払出し、残り100個は6月6日仕入分の@¥500から払い出す。

払出欄

{ 数量：200個 単価：@¥400 金額：¥80,000 (前月繰越分)
数量：100個 単価：@¥500 金額：¥50,000 (6月6日仕入分)

残高欄

数量：500個 単価：@¥500 金額：¥250,000 (6月6日仕入分)

6月18日 高知株式会社よりK商品を@¥600で400個仕入、代金は掛けとした。

単価が異なるため、合算せず残高欄に併記する

受入欄

数量：400個 単価：@¥600 金額：¥240,000 (6月18日仕入分)

残高欄

{ 数量：500個 単価：@¥500 金額：¥250,000 (6月6日仕入分)
数量：400個 単価：@¥600 金額：¥240,000 (6月18日仕入分)

6月24日 徳島株式会社へK商品を@¥900で800個売り渡し、代金は掛けとした。

先入先出法に基づき、払出は以下の順に行う。

まずは6月6日の仕入分@¥500から全て(500個)払出し、残り300個は6月18日仕入分@¥600から払い出す。

払出欄

{ 数量：500個 単価：@¥500 金額：¥250,000 (6月6日仕入分)
数量：300個 単価：@¥600 金額：¥180,000 (6月18日仕入分)

残高欄

数量：100個 単価：@¥600 金額：¥60,000 (6月18日仕入分)

6月30日 帳簿の締め切りを行う。

次月繰越の行には、6月24日に残高欄に記録した「数量100 単価600 金額60,000」を払出欄に記録し、受入欄と払出欄の合計欄に数量と金額のそれぞれ合計する。

受 入			払 出		
数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
1,200		620,000	1,200		620,000

7月1日 帳簿の開始記入をおこなう。

前月繰越の行には、6月30日に次月繰越の行に記録した「数量100 単価600 金額60,000」を受入欄と残高欄にそれぞれ記入する。

第5問

決算整理事項

1. 現金過不足の処理

現金過不足の残高 <解答用紙>残高試算表・現金過不足勘定の借方残高より¥15,000
現金過不足の残高¥15,000は、広告費¥15,000の記帳漏れであることが判明したので、
現金過不足勘定から広告費勘定へ振替える処理をする。

(借) 広 告 費	15,000	(貸) 現 金 過 不 足	15,000
-----------	--------	---------------	--------

2. 売上原価の算定

期首商品棚卸高 <解答用紙>残高試算表・繰越商品勘定の借方残高より¥116,000

(借) 仕 入	116,000	(貸) 繰 越 商 品	116,000
繰 越 商 品	120,000	仕 入	120,000

3. 貸倒引当金の見積り

売掛金の残高 <解答用紙>残高試算表・売掛金勘定の借方残高より¥1,300,000

貸倒引当金の見積額 ¥52,000

貸倒引当金見積額の計算 $¥1,300,000 \times 4\% = ¥52,000$

貸倒引当金の残高 <解答用紙>残高試算表・貸倒引当金勘定の貸方残高より¥32,000

貸倒引当金繰入額 ¥20,000 ※差額補充法により処理をする。

貸倒引当金繰入額の計算 $¥52,000 - ¥32,000 = ¥20,000$ ※

(借) 貸倒引当金繰入	20,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	20,000
-------------	--------	---------------	--------

4. 減価償却費の計算

備品の取得原価 ¥770,000 ※決算整理事項4. 備品は当期首に購入し、直ちに使用に供したもの

当期の減価償却費(定額法) ¥154,000

減 価 償 却 費 の 計 算 $¥770,000 \div 5 \text{年(耐用年数)} = ¥154,000$

直接法により記帳するので、備品勘定から直接控除する。

(借) 減 価 償 却 費	154,000	(貸) 備 品	154,000
---------------	---------	---------	---------

5. 給料の未払高(費用の見越し)

給料の未払分が当期に該当する場合、当期の費用として給料勘定を用いて処理をし、次期に支払う義務として未払給料勘定を用いて処理をする。

(借) 給 料	40,000	(貸) 未 払 給 料	40,000
---------	--------	-------------	--------

6. 家賃の前払高(費用の繰延べ)

支払家賃に、次期に該当する¥13,000が含まれている場合、支払家賃勘定から前払家賃勘定へ振り替える処理をする。

(借) 前 払 家 賃	13,000	(貸) 支 払 家 賃	13,000
-------------	--------	-------------	--------